

# 知って備える防災メモ

第23回



## 冬季の防災対策を考える

冬季に地震・津波などの災害が起こると、夏季とは違った対策が必要となります。

冬季の防災について考え、適切な対策を行いましょう。

### 冬ならではの心構え

冬季に災害が発生すると、積雪や寒さにも注意しなければなりません。次のことに注意しましょう。



### 積雪への対策

#### ○避難経路の確保

積雪により、避難経路が通行できなくなる場合があります。安全かつ迅速に避難することができるように、地域の方で積極的に避難経路の確認や除雪をしましょう。

また、普段から滑り止めの付いた靴を履き、転倒を防ぐなどの対策もしておきましょう。

### 寒さへの対策

#### ○防寒具などの用意

災害が発生し、避難所で生活するときや、暖が取れない状況で自宅待機しなければならぬときは、体を温め、体温を維持することが重要です。非常持ち出し品や備蓄品に次の物を追加しておきましょう。

- ・ジャンパーや帽子、手袋、厚手の靴下などの防寒具
- ・使い切りカイロ
- ・毛布
- ・ポータブルストーブと燃料など

### 冬季の防災訓練

冬季は積雪や路面凍結などにより避難が妨げられます。冬季を想定した防災訓練や研修会の実施について町内会などで検討し、避難経路や危険箇所などの確認を行い、災害に強い地域づくりを目指しましょう。

問い合わせ

総務グループ

(☎) 1130

人が輝き まちがときめく

## 仲間たち

Group

### サークルメロウネット

『サークルメロウネット』は、パソコンやネットワークを利用し、仲間と共に楽しく活動することを目的に、平成25年3月に結成されました。毎回、メンバーがパソコンを持ち寄り、相互に知恵を出し合っており、パソコンの使い方を学んでいます。現在の会員は15人。毎月第3水曜日の13時から17時まで、市民活動センターで活動しています。メンバーの年代は50代から80代までで、普段の活動のほか、年に4回ほど親睦会などを開いています。

「初心者でも少しずつ覚えていけるよう、『まずはゆっくり楽しく』を方針に活動しています。パソコンを通して仲間とのふれあいが生まれるので、頭が



▲誰でも参加できるパソコン教室

## パソコンやネットワークでどんなことができるか学び合っています

活性化しますよ」と話すのは、代表でシニア情報生活アドバイザーの渡邊嬌子さん。

ことし4月から活動に参加している安部嘉孝さんは、「サークルでは共通の趣味を持った仲間に出会えるので、いつも楽しみにしています。また、パソコンの使い方を覚えることで、さらに楽しみが広がっていきます」と笑顔で話してくれました。

パソコンの使い方を学んで、ビデオの編集や孫とのメールのやりとりを楽しんでいるメンバーもいるという同サークル。活動日の13時30分から15時30分までは、誰でも参加できるパソコン教室を開催しています。

見学を希望する方は、渡邊さん(☎)1864)まで。

## 郷土愛の精神で安全・ 安心な市民生活を守る

「消防団員になって51年間、大きな事故もなく、活動をやり遂げることができました。後輩の皆さんには、家族やふるさとへの思いを原動力に、地域の方がたと一体となった活動を展開してほしいですね。私も消防団の卒業生として協力していきます」と笑顔で話す成田幸久さん。

消防団に入団した翌年、成田さんは、上登別町で3日間燃え続けた山火事の現場に出動し、消火活動に従事しました。

「無理をせず、声を掛け合いながら落ち着いて行動するよう先輩から指導を受け、現場に臨みましたが、急に風向きが変わり、火が一気に燃え上がって自分に迫ってきたときには、恐怖を感じました。当時は大きな火災や災害が多く、消防団も昼夜を問わず活動しました。今も団員は、日頃から厳しい訓練を積み、万々に備えています。大変なこともありましたが、自分たちのまちは自分たちで守るといふ郷土愛の精神で、安全・安心な市民生活を守るお手伝いができたことは、良い思い出です」と、自らの消防団活動を振り返ります。

## 市民の理解が消防団を 支える大きな力に

全国的に消防団員が減少する中、成田さんも消防団長として団員の確保に力を入れてきました。

「かつて、団員のほとんどは自営業の方でした。徐々に会社員の団員が増えてくると、勤務中に火災や災害が起きても職場を抜けられなかったり、仕事で訓練に参加するのが難しかったりするなど、仕事との両立の問題から、団員が減少しています。防災意識が高い方も、勤めている企業の理解や家族の協力がなければ消防団員になることは難しくなります。市民に密着した活動を通し、消防団の活動を広く理解してもらうことが、消防団を支える大きな力になると信じています」と、消防団活動の活性化に期待する成田さん。

まちの安全・安心を願いながら、消防団の活動を見守ります。



▲消防出初め式で行進する成田さん(右)



KIRARI

なり た ゆき ひさ  
**成田幸久**さん(中央町)

昭和38年から51年間にわたり、登別市消防団で活動した成田幸久さんが、ことし10月、活動の第一線を退きました。

消防団員は、仕事の傍ら、消防署と連携しながら、火災の消火や予防啓発をはじめ、大規模災害では、救助、警戒巡視、避難誘導など、さまざまな現場で活躍し、市民やまちの安全・安心を守る重要な役割を担っています。

平成16年10月から10年間、登別市消防団長も務め、団の先頭に立って活動を続けてきた成田さんに、消防団への思いなどを聞きました。

## 家族やふるさとへの 思いが消防団活動の 原動力



昭和16年、室蘭市生まれ。73歳。  
幌別中学校、北海道室蘭商業高等学校を卒業後、昭和35年、両親が経営する靴店で働き始め、店を継ぐ。長年、登別書道連盟の会長を務め、現在も子どもたちに書道の指導を行う。